

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：スリランカ）実践報告

1. タイトル 『国際協力と日本人』

－つまらない大人にならないために、日本人として我々はどのように生きるか？－

2. 高橋 勝也 TAKAHASHI KATSUYA

公民科 東京都立拝島高等学校

3. 実践教科 政治・経済 時間数 5時間

4. 対象学年, 生徒 3年生6クラス（168名）

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

開発途上国に生きる人々やそこでの実態を知り、現地で活躍する日本人の生き方や考え方を参考に、自らの生き方や日本人としての国際社会への貢献の在り方を主体的に考える姿勢や能力を養う。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材・資料等
<p>1 時限</p> <p>『スマトラ沖地震津波被災の現実を知ろう！』</p> <p>－日本では知れない現実から、開発途上国をより知ろう－</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. スマトラ沖地震について知っていることを発表する 2. 写真を提示する 3. 津波被災について確認する 4. 阪神大震災の復興と比較する 5. 開発途上国について知っていることを発表し、写真から学びあう 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修における写真 ● インターネットで採取した写真
<p>2 時限</p> <p>『スリランカから世界を知ろう！』</p> <p>－同音（同語）異想から世界を理解しよう－</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教室」や「タクシー」を書いてみる 2. スリランカの「教室」や「タクシー」を写真で見してみる 3. 教室やタクシーなどから日本での「当たり前」とスリランカでの「当たり前」を考える 4. 日本での「当たり前」が世界では通用しないことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小型画用紙 ● 研修における写真
<p>3 時限</p> <p>『安い！と喜ぶ人々の裏側を考えよう！』</p> <p>－プランテーションについて考えよう</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. たわしを提示し、何からできているか考える 2. 実際にヤシの実を見る 3. プランテーションについて知っていることを発表する 4. プランテーションの現状を写真から知る 	<ul style="list-style-type: none"> ● スリランカ産たわし ● ヤシの実 ● 研修における写真

ー	5. 地元民からの搾取を考える	
4 時限 『我々は世界の人々を助けることができるか?』 ー二杯のコップからー	1. スポーツドリンクとORSを飲み比べてみる 2. ORSが何からできているか考える 3. ORSが何のための飲み物なのか考える 4. ORSが完全に普及しない理由を考える 5. 国際協力の難しさを知る	● スポーツドリンクとORS
5 時限 『世界で活躍する日本人たちから学ぼう!』 ーつまらない大人にならないためにー	1. スリランカで活躍している青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの活動を紹介する 2. 自らの生き方や日本人としての国際社会への貢献の在り方を考える 3. 楽曲を聴いて、自己のあり方を考える。	● 作文用紙 ● 研修における写真 ● 楽曲 S M A P 「Triangle」

6. 授業の詳細

1 時限 『スマトラ沖地震津波被災の現実を知ろう!』

ー日本では知れない現実から、開発途上国をより知ろうー

本校の実態はここ数年国際理解教育が組織的に行えているとは言えない。そのため、本校生徒の国際理解教育に対する関心・意欲・態度もかなり低いと言わざるを得ない。JICAからお誘いのあった高校生実体験プログラムを公募するも、ひとりの応募者もないのが実態である。

ゆえに、本時は動機付けを第一の課題とした。偶然といって良いほど、開発途上国の多くを襲ったスマトラ沖地震津波であった。これを国際理解教育や開発教育の第一歩として教材化することはナンセンスであるという御指摘も今にも聞こえそうである。が、しかし、前述の理由により、ここで扱うこととした。

生徒ひとりひとりがマス・メディアから得た知識や小学校や中学校での既得知識を最大限生かすため、自由な発言を許す環境としたい。

震災後半年以上経過する中で、思うように復興が進まない現実を阪神大震災と比較し、開発途上国の問題点を自然と植えつけていきたい。途上国を先進国の一員として見下す風潮を完全に断ち切るために、被災地のけなげな子どもたちの笑顔を見せよう。

2 時限 『スリランカから世界を知ろう!』

ー同音（同語）異想から世界を理解しようー

私は常に教育者として世界平和を求める人間の育成が大きな命題であると考えている。世界と付き合っていく場合、第一歩は日本の文化を尊重しつつ、日本人としての「当たり前」という感覚を捨てなければならない。「当たり前」の感覚を完全に捨てきれず、自分自身が世界の友人を失った経験からである。

生徒には比較的考えやすい日常生活や学校生活の一部から考えてもらうことにし、外国や世界を理解する感覚を養わせたい。

スリランカにはカレンダーが縦書きのものがある。日本の「当たり前！」をスリランカ人に押し付けてしまえば、対立になりかねない。世界友好の第一歩を考えさせる。

3時限 『安い！と喜ぶ人々の裏側を考えよう！』

ープランテーションについて考えようー

日本経済はかつてないデフレ経済を経験し、「安い！安い！」とばかりは言って喜んでいられない状況があった。しかし、子どもたちはそこまで理解できず、100円ショップの乱立などで、モノが安く変えてしまう環境が当たり前であり、それ以上のことはあまり考えることはできない。

新世界の工場中国を外して考えることはできないし、歴史的に長い目で見ればプランテーションによる先進国の途上国からの搾取も忘れてはならない要因と考える。

プランテーションの見学は衝撃であった。支配側のマネージャーと被支配側のワーカーの貧富の差は教科書で学び尽くせるものではない。ワーカーの貧しさが支配側や先進国の豊かさの原動力であることをまざまざと目で見えてきた。

この現実を伝えずして、この現実を知らずして『国際協力』や『国際理解』はあり得ない。

4時限 『我々は世界の人々を助けることができるか？』

ー二杯のコップからー

『国際協力』に関心を持ち、ぜひ実践できる生徒を育てたいものである。しかし、高校三年生であるがゆえ、簡単ではないその難しさも伝えて生きたいものである。

この時間は『新開発教育の進め方』を参考に組み立てている。ORSは日本では考えることのできない下痢や脱水症状で死亡してしまう子どもたちを、安価で簡単に助けることができるという画期的な飲み物である。

しかし、なかなか普及しないのが現実であり、安価すぎるがゆえに利益を追求する医者や企業が勧めたがらないという人間のエゴが存在する。これをヒントに、『国際協力』の難しさや問題点を主体的に考えさせるようにしたい。

5時限 『世界で活躍する日本人たちから学ぼう！』

ーつまらない大人にならないためにー

実践力のある生徒を育てたいものである。しかし、教員をある程度続けていると少しずつではあるが、無気力・無関心・無感動の生徒が増えているのに気づく。一般論ではあるが、飽食の時代であり、何事に対しても自ら追い求める必要もなければ、致しかたない時代なのかもしれない。加えて、大人たちもずるさばかりを見せつけ、夢を与えられることができずにいれば、当然の結果と言える。子どもたちを攻めることはできない。

激変する社会に今すぐ巣立っていく生徒諸君にやはり、道徳的な実践力を植え付けたい。

しかし、今の生徒諸君には想像するに「自分だけちょっと協力したところで世界は変わらない。」「自分のことで精一杯!」「周りの大人も何もしていない。」など、いろいろな言い訳が考えられる。

『今の世の中』を言い訳にして、この時間で考えることをやめさせるわけにはいかない。モラトリアルな世代のため、すぐに実践をする必要はない。しかし、いつの日か道徳的な実践ができるよう、考えることをあきらめさせないことが一番大切ではないか。そのような授業を展開する。

スリランカで活躍している青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの活動を紹介するが、生徒たちに「すごい人たちだね。」というだけの感想で終わらせたくない。

大隅紀和専門家の黒板供給計画を知らせることで、小さな問題を難しくない草の根運動で国際協力ができることをわかってもらいたい。そして、その草の根運動こそが国を、政府を動かす原動力となることを伝えたい。

宮本忠則隊員の活動もぜひ、紹介したい。まさしく、今どきの茶髪なお兄さんである。失礼な話ではあるが、一目では『国際協力』とは縁遠い感じがする。彼へのインタビューは衝撃的であった。「自分は生きている価値がなくて、もう死んでもいいと思っていた。そんなとき、ちょっとの援助で開発途上国の子どもたちがたくさん助かることをTVCMで知り、人助けをしてから死んでも遅くないと考えるようになった。(中略) 青年海外協力隊として活動しているけれども、自分の活動だけで世界が良い方向へ変わるとは思っていない。でも、あんたたちがこんなにひどい世の中に、こんなにだめな世界にしてしまったのかと、未来の子どもたちに言われたくないと思うようになった。自分もたくさん大人たちのせいにしてきたけれど・・・同じことを言われるくらいなら、自分自身やれることはやったほうがいい。今はそう思っている。」

石田良子隊員がスリランカの子どものために柔道着を送ってほしいと申し出があった。JICAを通じて送る方法があるので紹介したい。そして、本校のあらゆる部屋の片隅には数々の先輩たちが放置していった柔道着が散乱している。

7. 成果と課題

進路決定を控える高校三年生に対し、一斉的な授業を展開することも多い。しかし、この5時間は生徒たちにとって、刺激的であったことは生徒による授業評価でもわかる。何より、授業を進めていく私自身が、大きな反響を生徒から受け取るたびにやる気に満ちて授業に臨むことができた。授業が楽しくて、楽しくて仕方なかった。5時間がもう終わってしまうのかというさびしい気持ちになった。

最後の最後にSMAPの楽曲「Triangle」を聴かせた。この三角形は三者と捉え、銃を構える人々、銃に怯える人々、そして、傍観している僕らの三者がいる。「それぞれ重さの違う尊ぶべき命だから・・・」「精悍な顔つきで構えた銃は、僕らの心に突きつけられている・・・」さあ、僕らはどうすべきなのだろうか。生徒と共に考えたい。

資料等（使用したスライド）

[2 時限]

スリランカの教室6！



教室に必ず水筒が・・・生水を飲ませない親心です

カレンダーの数字は横並びのはず！？

カレンダーを思い浮かべよう！



スリランカの教室4！



正面を向いて授業を受けるのも当たり前！？

[5 時限]

スリランカのこれは何？



必ず文字に隙間ができてしまう黒板

考えよう！ ヒント！



大隅和紀専門家



黒板にある日本のマーク



一人の行動が国や世界を動かす！

大隅専門家の黒板！



教師海外研修報告（スリランカ）と授業研究

学校名：東京都立一橋高等学校（家庭科）

氏名：高島 みゆき

1. 教師海外研修報告（スリランカ）（2006. 7. 25～8. 4）

多くの訪問先の中で、私自身が国際教育のヒントとなると考えた言葉について報告したい。

1) 7月26日（火）：JICA 事務所

- 開発は、人間としての普遍的な価値を守るためのもので、人間の安全保障の考え方（人間としての尊厳を守ってゆくもの）で中・長期的な計画で動くべきである。長い目で見れば、日本のためにもなる。
- 1960年代スリランカモデルといわれ、開発途上国でも相互扶助の精神で助け合いながら、国作りをし、経済成長のみを追求しなかった。現在は、2つの社会体制の考え方が拮抗している。①合理的社会で経済のπを大きくするか（弱肉強食の社会作り）
②貧しくても平等な社会をつくるか「サルボダヤ運動」の参加型農村開発
- 民族紛争 10万人近く殺された。殺しあつた人々を裁くことでは解決しない。これから「開発」を一緒に行う、前向きな目標が必要。住民レベルでの交流が進むことで、他民族への恐怖心という作られた幻想がなくなる。今後、①交流をすすめること。②コミュニケーション手段(言葉の問題など)を解決することが大切。

2) 7月27日（水）：マハラガマ小学校

- 子どもに求める像「つつしみ深い、謙虚な人間になって欲しい」



3) 7月27日（水）：教育事情概説 専門家より

- 援助の障害：スリランカは、各国・援助団体がきそって援助し、「援助の実験室」である。協力疲れ、援助疲れがある。プロジェクトに追われ、それが終わるとまた新しいプロジェクトが入る。先生が苦しむ教育や援助ではなく、楽になる教育や援助が必要。
- 「kokuban 黒板プロジェクト」（移動できる、スチールシート、格子入り書きやすいマグネットも使用できる黒板）を実施。20年間続く民族紛争の中、停戦合意に対応して平和の配当が行き渡ることが重要。平和の良さを知ってもらう足の速い、目に見える協力。北東部だけでなく、地域や学校規模の偏りがなく、援助のバランスが大切。
- 知識偏重の教育から実験実習など「プラクティカルアプローチ」の推進が重要。

4) 8月2日(火): デヒワ・マウントピニア市パドーウィタ地区都市貧困コミュニティ開発サイト

- 1994年～国際協力銀行と共同作業。自治組織結成、上下水道整備、街灯設置、ゴミ処理(コンポストとリサイクル) 公民館や図書館、5世帯ずつの共同貯金・貸し出しなど
- 開発の歴史: ①トイレの設置②各家庭に水道整備、下水の溝作り(1件450Rの負担)
③図書館、公民館の設置(JOCVと住民の半額負担) ④ゴミ問題各家庭のコンポスト、
ゴミリサイクルセンター(住民コントラクトの組織、市も援助) ⑤トイレの改修
- 解決の秘訣: ①住民の自治組織が強くなる ②各種の援助
- 今後の課題: ①若者の問題②子どもの教育(お寺の日曜学校など) ③運河の浄化
- ◆自治会長さんのマニさんの話は、まさに力強い、熱意のあるものであった。本来ならば、一家庭の主婦であった人が、自治会の活動に誇りと自信をもっていることに感動した。開発の歴史や援助のしかたを克明に記憶していることに驚いた。今までの援助は、ともすると援助の押し付けであったことは否めない。住民の自治意識を育てるためには自負者負担も必要であると痛感した。シニア隊員は、「私たちは、住民と行政やNGOの橋渡し役である」と徹し、住民と住民組織の自立エンパワーメントに重きをおいていた。



プロジェクト前



プロジェクト後

6) 8月2日(火): モラトゥア津波被災地 サワツサニワサ子ども会

- 未だに、津波被害の瓦礫処理がされてなく、仮設住宅に住んでいる住民がほとんどである。復興までははまだまだだと痛感した。政府の被災地の復興に関する方針が決定していないようで、コミュニティベースの組織化・活性化が必要。
- <津波緊急救援の現状と問題点>
 - ・莫大な募金が集まった⇒マスコミの影響
 - ・政府から海岸線200m以内(バッファゾーン)のところには建造物を建ててはならないという規制がかかり、また、土地台帳の流出で恒久的な住宅建設が遅れている。
 - ・政党間の確執。コロンボ政府とLTTEの間で駆け引き。和平の進行か? 緊張が高まるか?
 - ・海外の援助により、多額のお金が急に落ち、物価が上昇した。 ・援助が一部に偏る。
 - ・援助依存 ・内戦被災者と津波被災者の不平等 ・緊急援助と継続的な援助のバランス
- ◆未だに被災者の支援が十分ではない。家屋や家族を失い、失業、インフラ整備、土地権利など問題は山積みである。復旧には、政府と地域住民のとの合意が重要で、その自治組織 コミュニティ作りが必要だと痛感した。できたばかりの4つの「子ども会」を見学した。どこも精一杯の歓迎の歌や踊りを披露してくれた。子どもたちの表情は明るい。熱いものがこみ上げてきた。(2006年8月現在)

2、研修を生かした授業実践例

積極的な平和作りにかかわる ～スリランカから～

実践教科： 総合的な学習の時間、特別活動など

対象学年： 高校1～3年

【題目設定の理由】

スリランカは、20世紀前半までは、アジアの中で最も豊かで安定した国として知られていた。しかし、現在も紛争が続き、社会的にも不安定な状況である。

現在の紛争や戦争は、国と国との争いでなく、民族間、宗教間、利益団体間など複雑で、原因も様々で複雑である。私たちの物質的に豊かな生活も、紛争がおきている諸外国も深くかかわっていることに気づき、人間の安全保障の観点から、積極的な平和作りにかかわることが重要であることを理解させたい。

「平和作り」は、まず、自己を振り返り、身近な人や事柄を理解し、お互いを認め合うことである。知識だけでなく、アクティビティなどを通じ、人とかかわり、理解しあう態度を育成するし、積極的に平和にかかわることのできる力を育てることを目的とした。

【めざす生徒像】

- ①様々なその国や人を知り、理解すること。積極的に多くの国や地域を知る努力をすること。
- ②自己理解、自分を大切にすること。仲間作りができ、コミュニケーションから、お互いを認め合い、尊重する技能や態度を育むこと。
- ③非暴力による対立の解決方法を学び、その対立解決技術（仲裁、調停、交渉など）を身につけること。

「ユニセフの開発のための教育」

他人の意見に耳を傾け、多様性を尊重し、平和を願い、寛容な精神を育み、自然環境を大切にし、自由な社会で、責任ある市民として生きるように子どもたちを育てる教育

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材など
1・2時限（導入） スリランカを知る ・スリランカの概要を知る ・ステレオタイプや偏見や差別はどこからくるのか	①スリランカのイメージは何か 「クイズ」や「部屋の4隅」を使う。 ②スリランカの概要を地理的、歴史的、文化的な面から理解する。 ③ビデオなどを視聴。 ④①のイメージと②③とはどこが違うか。それはどこからきているのか？ 偏見や差別はなぜおきるのか。 ⑤（宿題）スリランカに関して、新聞記事、インターネットで調べる。	・インターネット ・ビデオ映像 ・新聞記事など ・「同化」と「排除」が表裏一体であることを知る。

<p>3・4時限 スリランカの紅茶プランテーション1</p> <p>・紅茶プランテーションの実態を知る</p> <p>詳細は次ページ</p>	<p>①紅茶プランテーションの実態を知る。 植民地支配、大規模農園、モノカルチャー、不均衡な貿易など。</p> <p>②紅茶への知識も深める。 身近な食品の紅茶への知識を深めることも総合的に理解をする上で有効である。</p>	<p>・パワーポイント資料</p> <p>・本資料</p>
<p>5・6時限 スリランカの紅茶プランテーション2</p> <p>・紅茶プランテーション改善計画を立てる。</p> <p>・開発で大切なことは何かを知る。</p> <p>詳細は次ページ</p>	<p>①プランテーションでの改善計画を考え、改善計画を発表する。</p> <p>②「フェアトレード」の意味を知る。</p> <p>③国際協力で大切なことは何かを考える。＜キーワード＞ 住民の自立、エンパワーメント、持続可能な開発、人間の安全保障、</p> <p>④NGOの国際協力の例を知る。</p>	<p>・パワーポイント資料</p> <p>・本資料</p>
<p>7・8時限 スリランカの紛争1</p> <p>・スリランカの紛争の複雑な構造を理解する。</p> <p>・構造的な暴力と積極的平和とは何か</p> <p>・人間の安全保障の意義</p> <p>＜スリランカの紛争＞ 多民族、多宗教、多言語の複合国家であるスリランカは、さらに植民地主義、宗教の近代化、ナショナリズムの運動、社会階層、カーストの対立が重なり、構造がより複雑化している。また、紛争の長期化により、他国や海外のNGO・援助団体を組み込んだ複雑な構造ができている。</p>	<p>①スリランカの紛争の原因を知る。 社会、文化、歴史、経済、政治のなりたちからとらえる。</p> <p>②長期化する原因は何か考える。</p> <p>③紛争・戦争がおきる原因は何か。 暴力の記憶、国際社会の介入、グローバル化による人と資金の流れ、誰のための平和なのか。</p> <p>④人間の安全保障の意義を知る。 ・優越した軍力による鎮圧、抑制ではない平和作りとは何か。 ・平和構築がめざすのは、人々が安心して暮らせる社会をつくること。 ・民族間の対話、社会的能力の強化を通じて人々が、将来に期待を共有できることが重要。人と人の繋がり、相互理解と信頼を形成することが社会変革につながる。</p> <p>⑤国際協力(JICA他)の具体例を知る。</p> <p>⑥(宿題) 世界の紛争とその原因・背景などを調べてみよう。</p>	<p>・インターネット</p> <p>・「世界の紛争」がわかる本</p> <p>・JICA＜支援例＞ 「コミュニティアプローチ」 収入向上活動や自治・共同作業など共同作業、交流、対話を通じ、住民間の信頼関係を構築し、コミュニティの社会的な安定をめざす。(スリランカ人が意思決定する。集会場、保育園の建築)</p>

<p>9・10 時限 スリランカの紛争2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をまとめ、相手の意見を聞く態度を養う。 ・アクティビティを通じて、紛争解決の態度を育む。 ・「説得」「納得」「妥協」「協力」の態度を養う。 <p><キーワード> ○平和構築がめざすのは、人々が安心して暮らせる社会をつくること。民族間の対話、社会的能力の強化を通じて人々が、将来に期待を共有できることが重要。人と人の繋がり、相互理解と信頼を形成することが社会変革につながる。</p> <p>○「<u>直接的・物理的な暴力</u>」と「<u>貧困、人種差別、人権侵害などの構造的な暴力</u>」がある。</p> <p>構造的な暴力は、対立の原因を生むこともある。対立・戦争などのない状態を「<u>消極的な平和</u>」。対立を生む原因をも取り除いた状態を「<u>積極的な平和</u>」という。</p>	<p>①部屋の4隅で、自分の意見を発表し、相手の意見を知り、意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分のことを大切にしている。」 ・「価値観の違う人とつきあうのは、おもしろい。」 ・「相手を大切にするためには、自分を犠牲にしなければならない。」 ・「コミュニケーションがうまくいかないのは、双方に責任がある。」 <p>上記は、紛争解決のキーワード。</p> <p>②対立を解決する手段を考える。「事例カード」を配布してよく読み、自分が当事者だったら、どうするか考え、発表する。</p> <p>A：多数派の民族。比較的裕福で政治、経済面でもBより優位である。最近AとBの差が大きくなってきている。AはBを差別しているとは思わない。しかし、紛争で多くの人々が亡くなり平和を求めている。AとBは使用言語が異なる。国際社会への窓口になっている。</p> <p>B：少数派の民族。長い紛争のため、貧困に苦しんでいる。多くの男性が紛争で死亡。Aグループから差別を受けていると感じている。平和を望んでいるが、現段階では、政治に失望感がある。地理的には国の重要なポイントに位置している。外国の同胞からの支援がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原因は何か ・お互いどうしてほしいか ・課題（目標）の設定 ・課題に向けての方法を出し、検討する。 ・最善の方法を話し合いで決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞く」「聞かない」「積極的に聞く」アクティビティ ・多数派、少数派体験ゲームでもよい。 ・「排除」と「同化」 <ul style="list-style-type: none"> ・事例は身近な出来事でもよい。友人関係でおきる対立などでもよい。 ・意見の優劣でなく、自分の意見を表明し、相手の意見に耳を傾けることが重要である。 ・国際協力の世界でも身近な社会でも、紛争の解決法は共通することが多いことを知る。
<p>11 時限 非暴力ワークショップ</p>	<p>①人を信じることはどんなことか ②認め合うことにはどんな態度が必要か、体を使い、体験する。</p>	<p>『非暴力』現代書館 『非暴力トレーニングの思想』論創社</p>

<p>12 時限（まとめ） 積極的な平和を作るには？ <平和へのキーワード> 「知る」「理解する」「機会が与えられる」「絶対的な不平等がない」「許容する」「交流」「異なる民族との共同作業の促進」</p>	<p>①今まで学んだことを総合して、「積極的な平和作り」に必要なものは何か KJ 法で、各自書き出す。 <u>自分にできるものは、★5 つマーク</u>であらわす。 ②グループで、話し合い、表にまとめる。 ③自分のまわりで、対立がないか。ある場合はどう行動したらよいか。</p>	<p>・グルーピングでもランキングでもよい。</p>
--	--	----------------------------

<具体的な教材 1> 3・4 時限 スリランカ紅茶プランテーション 1
「紅茶プランテーションの実態を知る」

【ねらい】

- 身近な紅茶、国際商品としての紅茶の現状を知る。
- スリランカの紅茶プランテーションの現状を知る。

	学 習 活 動	指導上の留意点
導入	1) スリランカの紅茶を飲む。 2) 紅茶からイメージする言葉を発表する。 高級、イギリス、アフタヌーンティ、優雅・・・	<ul style="list-style-type: none"> ・紅茶に興味関心をもたせる。
展開	<p>1) スリランカと紅茶プランテーションの現状を知る。</p> <p>①紅茶の世界生産量とスリランカの経済における紅茶の割合</p> <p>②紅茶プランテーションの歴史と特徴</p> <p>③プランテーション居住者の生活の現状と問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長年にわたる支配構造（将来のあきらめ） ●生活情報が得られにくい。 ●住民の住環境と生活モラルの悪化 ●紅茶産業の衰退など <p>④その他</p> <p>紅茶の製造方法、紅茶のおいしい飲み方の豆知識、紅茶と緑茶とウーロン茶の違いなど幅広く、紅茶の知識を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで、紹介する。 ・適宜、質問を加えながら、パワーポイントで説明する。 ・自分自身で調べることの面白さを伝え、学習に積極的にかかわる楽しさを伝える。 ・単に紅茶プランテーションの現状を知るだけでなく、私たちの身近な食品の紅茶自体の理解することも興味関心を深める意味で大きい。
まとめ	1) 問題点を各自であげる。 2) 次回、このプランテーションの改善計画を考えることを伝える。	

＜教材 1＞ 5・6 時限 スリランカ紅茶プランテーション2

「プランテーション改善計画を立てる。」

【ねらい】

- 開発のあり方を考える。
- 自分たちにできることは何か考える。

	学習活動	指導上の留意点
導入	1) 前時間の感想、プランテーションの問題点を発表する。	・前回の授業を振り返り、学んだことを共有する。
展開	1) 紅茶プランテーションの改善方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ●何が問題かまとめる。 ●どんな目標があるか ●具体的な改善策、事業は何か。 ●どんなところに注意しなければならないか。 2) KJ 法でまとめる。 ①各自で小さい紙に、改善策を書く。 ②グループ（5名くらい）を作り、各自、紙に書いた内容を発表し合う。 ③各班で、グルーピングまたはランキングで模造紙にまとめていく。 ④各班5分程度の発表を行う。	・どんな意見も大切にすることを伝える。他の人の意見を尊重する態度を養う。 ・グループ作業を通じて、一つのことを作り上げる重要性を知る。
まとめ	1) 国際協力を行う上で、考えなければならないことは何かを考え、知る。 <ul style="list-style-type: none"> ●NGO の事業の紹介 住民参加型、住民組織を作る、住民意識向上、長年の特殊な環境による世代にわたる「依存心」から「責任感」への意識変革。 2) 「人間の安全保障」とは何か、その内容と意義を理解する。	・NGO[ケアジャパン]

◆1798年、イギリスの植民地として紅茶園が作られ、南インドから下層カーストがつれてこられた。21世紀になっても、その植民地構造がそのまま存在している。紅茶会社が民営化されてから NGO が入り、住居の改善（トイレの設置）、行政・情報サービスセンターの設置（ID カードの未修得、各種サービス）、マイクロファイナンス、各種行事など行い、生活改善は徐々に進んでいるが、まだまだ解決すべき課題は多い。

- ・会社と人々が良好な関係を保ちつつ、コミュニケーションをとることが重要。
- ・明確な国策とプランテーションの構造改革の必要性。
- ・世代にわたる「依存心」から「責任」への意識変化。
- ・「知らなければよかった」と思わせない導きと「学び」を实践する場。
- ・「目に見える成果」と「目に見えない成果」の均衡など。

<パワーポイント 1 >
NO.1~NO.6のスライド資料

<パワーポイント 2>

NO.7～NO.12のスライド資料

<パワーポイント 3>

NO.13～NO.18のスライド資料

3、ファシリテーターとして教師海外研修に参加して

今年度はじめて、ファシリテーターとして JICA 教師海外研修に参加させていただき、心より感謝申し上げます。今年度行ったことこれからできることをまとめてみたいと思います。

項目	本年度行ったこと	来年度できること
事前研修	<ul style="list-style-type: none"> ○役割分担案づくり ○教材開発の視点 ○研修旅行中に必要なもの、事柄のリストアップ ○研修旅行への要望をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前研修の計画に参加し、研修の目的や方法を明らかにする。 ○事前研修全体のコーディネート ○研修旅行への要望をまとめる
研修旅行 (スリランカ)	<ul style="list-style-type: none"> ○教材開発の材料作り ○体験のシェアリング ○研修中の振り返りの進行 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材作りとのヒントの提供 ○体験のシェアリング ○研修中の振り返りの進行
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○事後研修会の計画と実施 (3回) ○各種教材の提供 ○各種研究会や講演会の紹介と参加 <ul style="list-style-type: none"> ・町田市民大学国際学 全10回 ・和光大学スリランカ研究フォーラム ・交際交流基金 全8回 「スリランカ和平構築への道のり」 ・スリランカフェスティバル ・国際協力フェスティバル ・人材の紹介 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○事後研修会の計画と実施 ○各種団体や講演会、イベント情報の提供と参加 ○教材開発への助言 参考文献や人材の紹介 ○国際理解・国際協力の知識の共有 ○教材を開発する。 <p><ファシリテーター></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆研修後も参加者とともに行動できる近隣在住の人 ◆国際教育・協力団体に所属し、ネットワーク作りができ、ともに活動ができる人

<感想> 「持続して関心をも持ち続けることが大切！！」

スリランカ研修中は、驚きと感動の連続で、「日本に帰ったら、あれもしたいこれもしたい」と考えているのですが、実際、帰国し学校が始まると、学校の雑務に追われ、なかなか、スリランカに興味関心を持ち続け、教材開発をすることが難しいと痛感します。実は、帰国後どうするかが重要なのだと思います。何かをやらなければならないという縛りがないと、研修が遠い過去の話のようになってしまいます。自ら、やらなければならない環境を作ることでも大事で、それが国際理解・協力への関心の持続にもつながると思います。今後も、参加者の皆さんとネットワーク作りをして、国際教育の研修をすすめてゆきたいと思います。